

〔重修本草綱目啓蒙三十九〕貝子

ムマノクボガイ古名 タカラガヒ コヤスガヒ ハガヒ。

マキガヒ タラヒガヒ 子コガヒ 筑前チカラガヒ ヤウカヒ

眼科

一名海巴子徽瘡秘錄

壓驚本草 壓驚螺物吳氏食本草

海巴 同上

白海肥附方

管貝齒東醫寶鑑

螺巴東西考

海邊ニ多シ略 中ソノ質光滑ニシテ、厚硬紙ヲ研ルベシ、背ハ微ク隆ニ、腹ハ平ニシテ、左右兩邊ヨ

リ卷テ内ニ向ヒ、中央縱ニ小長竅ヲ開ク、左右ミナ齒刻アリ、ソノ色白シ、又斑文アルモノ甚多ク、

數百品ニ至ル、古者貨貝說文 而寶龜、夏后以玄貝、殷人以紫石、周則有泉貝、至秦廢貝行錢、正字通ニ漢食貨

大貝、壯貝、公貝、小貝、不成貝ノ五等アリテ、貝ノ長短ニヨリ、直ノ齊カラザルコト、正字通ニ漢食貨

志ヲ引ケリ、唐山ニテ上古寶トセシユヘ、貝ノ字ヲタカラガヒト訓ズ○中略

紫貝 ヤクノマダラガヒ和名 鈔 コヤスガヒ

八丈ガヒ

ニシキガヒ○中略

丹後、紀州、土州ノ海ニアリ、薩州及八丈島ニ產スル者ヲ上トス、大ナル者ハ長サ三四寸、形ハ貝子ニ同ジ、只背上中央聳ヘ隆ニシテ、質更ニ光硬紙ヲ研ルニ堪ニ、質ハ黒クシテ圓白章明ナリ、形ノ小異ヲ似テ、雌雄ヲ分ツ、俗ニ言フ臨產ノ婦人コレヲ持トキハ、產シ易シト、故ニコヤスガヒト呼ブ、貝子モ亦代用スベシ、因テ貝子ニモ、コヤスガヒノ名アリ。

〔貝盡浦之錦上〕貝子

たからかい、齒貝とも云よし、百貝の圖に見えたり、

是は古ヘ寶として、交易に用しものなり、委は貝經本草に見えたり、錢世に行れて、貝子すたると、天竺にても貝をすり碁石のごとくして、かり玄やはだと云て、錢のやうに用ゆとなり、色いろいろあり、東海夫人の類也、婦人產するに手にもたせば、安產すると云り、○下略

〔延喜式三十〕諸國進年料雜藥

安房國十八種○中略 貝子八兩○中略

上總國廿種○中略 瞽麥、貝子各三斤

〔竹取物語〕中納言儀のかみのものもろたかは、家につかはる、をのことものもとに、つばくらめすく